

ハードル走での情報端末を活用した授業実践

錦町立一武小学校 教諭 横山 誠二
tazan.smk.721@dance.ocn.ne.jp

キーワード：小学校体育，ハードル走，情報端末，撮影の視点，技能ポイント

1. はじめに

体育学習において、情報端末の動画機能を活用した実践が数多く紹介されている。しかし、先行事例を分析すると、撮影のポイントを理解できておらず、ただ撮影しているために、課題把握につながらないといった実践が見られる。さらに、情報端末を活用することばかりに時間を費やし、体育科の学習で重要な運動量の確保が十分できていないという実践も見られる。

そこで、本研究ではハードル走の授業、技能のポイントを指導することで、撮影の視点を明確にして効果的な動きの撮影ができると考え授業実践した。授業後の意識調査や撮影の仕方、ハードル走の記録を基に分析し、効果的な撮影を行うことで、課題把握・教え合い・練習方法の工夫等の技能の向上が見られるかどうかを検証した。

2. 研究の方法

小学校6年生 21名の児童を対象に体育の授業「ハードル走」を6時間実施した。第1時には、オリエンテーションとハードル走の記録測定を行った。第2時から第5時までは、技能ポイントを指導した。最後の第6時では、ハードル走記録会を行うように計画した。

そして、それぞれの活動後に情報端末に関する意識調査を実施した。また、映像を見てよく分かったところ（助走・踏み切り・リズム・振り上げ足・ぬき足・着地）についても回答させた。

3. 授業実践

情報端末活用の第1時は子どもたち全員が初めて使うため、まずは取り扱い等を説明し、本単元で活用する動画の撮影の仕方を指導した。そして、全員に撮影を経験させ、それぞれのグループでペアを組み自由に撮影させるようにした。

第1時では、全員がスタートからゴールまでの全体を撮影していた。位置については、近すぎて上半身だけしか撮影できず、または遠すぎて動きがよくわからないなど、技能のねらいにつながらない撮影映像がほとんどであった。

第2時から第5時では、表1に示すように技能ポイントを指導し、ハードル走の動きを撮影させるとともに、教師側が持つておく撮影の視点を明らかにして取り組むようにした。

表1 技能ポイント・撮影の視点一覧表

指 導	技能ポイント	撮影の視点
助走 踏み切り	・決めた足で踏み切る。 ・遠い位置で踏み切る。	第1ハードルと踏み切る位置が見える場所から撮影。
リズム	・3歩から5歩のリズムで跳ぶ。 ・自分に合ったインターバルを見付ける。	4台のハードルをリズムよく跳んでいる様子が見える場所から撮影。
振り上げ足 空中動作	・振り上げ足をまっすぐ振り上げる。 ・前傾の姿勢で跳び越す。	まっすぐ振り上げられ、足の裏が見える場所から撮影。
ぬき足 着地	・地面と並行にしてぬく。 ・振り上げ足をハードルの手前で着地する。	ぬき足側から、ぬき足と着地が見える場所から撮影。

第2時では、助走と踏み切りを技能ポイントとして指導した。また、第1ハードルの踏み切る位置にラインを引き、どこで踏み切ったのかが分かるようにした。そのことで、踏み切る位置とハードリングが見えるところ（横）から撮影をしている児童がみられた。



【第2時】踏み切る位置を横から撮影



【第2時】児童が撮影した実際の画像



【第4時】児童が撮影した実際の画像

上の図は、実際に児童が撮影した画像である。技能ポイントに応じた撮影をすることで、より課題が明確となり、その後の練習を工夫することにつながった。

また、第3時では、全体が見える場所から撮影したり、第4時では、振り上げ足を正面から撮影したりと、毎時間の技能ポイントに応じた撮影の視点を変化させながら、より明確に課題が把握できる場所から撮影するようになった。



iPad上でアドバイスし合っている様子

さらに、ペアの児童同士が iPad 上で自分や友達の動きを技能ポイントに照らし合わせながら「踏み切る位置が近くて、高く跳んでいるから、もう一つ後ろのラインから跳んだ方がいいよ」等のアドバイスし合う様子が見られるようになった。課題となるところで静止

させ、何度も繰り返し視聴することで、より課題を明確にして取り組むことができた。

4. 分析結果

4. 1 撮影のポイント

ペアで友だちの動きを撮影した映像を技能ポイントに合った撮影をしているか、動きの撮影ができていくかについて評価した結果、第3時以降は、技能ポイントに合った撮影をしている児童が増えた。このことは、教師が技能ポイントを指導したことで、児童自身がどの部分をどのように撮影すると技能ポイントが把握できるのかを理解できたためと考えられる。

4. 2 技能向上の評価

毎時間のハードル走の記録をクラス平均で示した結果、第1時の9.26秒から、第6時の8.52秒となり、単元全体で0.74秒向上しており、本単元での技能向上において、情報端末の活用と技能ポイントの指導に効果があったと考えられる。

5. まとめ

本研究で得られた成果を以下に示す。

- ・情報端末の活用にあたって、技能ポイントを明確に示し適切な指導を行うことで、効果的に撮影し、課題把握や技能向上につながることを示した。
 - ・情報端末で自分の動きを提示することで、自分の動きを振り返ることにつながり、めあてをもって取り組み、練習方法を工夫することにつながることを示した。
 - ・情報端末を活用する場や時間を決めて取り組んだことで、運動量の十分な確保につながることを示した。
- 今後は、今回実施したハードル走以外の種目でも、情報端末を活用した際の撮影ポイントと技能ポイントの指導の教育効果を分析していきたい。